グループホームせせらぎの家・1階
（別紙の2）

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 定期的に会議の中で理念の確認をし、ケアに繋げている。 | 「その人らしく暮らす家」の理念についてはホーム会議やカンファレンスの席上で確認し合い、利用者一人ひとりの想いを受け止め、利用者を中心に置いた支援に繋げている。また、馴れあいにならないよう気配りをし、いつも新鮮な気持ちで支援に取り組んでいる。家族に対しては入居時に理念に沿った支援について説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍により、ボランティアの受け入れなど積極的な交流を持つことは出来ていないが、散歩に出掛けた際は近所の方と挨拶を交したり、連絡を取り合い地域との繋がりが途切れないようにしている。 | 開設以来、自治会協力金を納め、地域の一員として夏祭りや文化祭等参加出来る行事には積極的に参加し、地域に開かれ親しまれるホームとして活動を続けている。新型コロナ禍が長引き地域行事も自粛状態が続いているが、今年は地域のお祭りが再開されお誘いをいただいた。また、高校生のサマーチャレンジの来訪があり、レクリェーションと介護体験を行ったという。10月には地域の中学生15名のボランティアの来訪が予定されている。例年であればホーム内外の窓拭きと利用者との交流が行われているが、今年はコロナ禍のため施設の周りの草取りをお願いする予定にしている。ホームの夏祭り、収穫祭も例年だと地域の皆さんを招待して行っているが、コロナ禍のためホーム内のみでの開催が続いている。来年こそ地域の皆様を招待したいと待望している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 看護実習、職場体験の受け入れを積極的に行っている。又、見学希望・相談にも乗っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 取り上げられた検討事項 について話し合い次に繋げている。現在取 り組んでいることも報告し意見を頂いてい る。 | 例年であれば家族代表、区長、副区長、2地区の民生委員、介護相談員、広域連合職員、ホーム関係者の出席で2～3ヶ月に1回開催しているが、コロナ禍が長引き書面での開催が続いている。利用状況、活動状況、コロナの感染対策、身体拘束適正化委員会の内容などについて報告し、意見・要望等を書面にして、「ご意見用紙」と返信用封筒を同封して送付し意見等を頂き、頂いた意見に対しては次回に回答をしてサービスの向上に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 必要に応じて、連絡連携を取っている。 | 広域連合職員、市の担当者とは必要に応じ連携し、ホームの運営に役立てている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応して行っている。市の介護相談員の来訪も再開が予定されており、再開されたらお願いする予定をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ホーム会にて身体拘束につ いての勉強会を行い、正しく理解すると共にケアの見直しを都度行い、身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。 | 方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。外出傾向の強い利用者も現在はいないが、ホールには必ず職員が1名は居るように徹底し、きめ細かな所在確認を心掛け安全確保に繋げている。また、玄関ドアは開閉毎にチャイム音で知らせるよう工夫がされている。また、転倒危惧のある方がおり、家族と相談の上センサーマットを使用している。月1回行われるホーム会議の席上、身体拘束適正化委員会を行い、拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | ホーム会にて勉強会を行い、ケアの場面を振り返り、不適切なケアになっていないか話し合い確認し合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 家族から相談があった際には関係機関に繋げる等している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約の際は、入居者や家族と話し合いを重ね理解・納得を得られるよう努めてい る。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や家族訪問時には意見を出して頂き、運営に反映している。入居者の方から意見を聞く機会を作ったり、思いを伝えることが困難な方からは表情や仕草等から汲みとるようにしている。 | 例年であれば夏祭り、収穫祭等の行事には家族を招待して利用者と共に楽しい一日を過ごしているが、今年もコロナ禍が続きホーム内のみでの実施となり、来年こそ家族と共に楽しめるようにしたいと待望している。また、面会については、現在、クリーンルームで行っており、歩くことが難しい利用者については感染対策を取った上で居室での面会を行っている。そうした中、家族との連携に力を入れ、ホーム全体の生活の様子は3ヶ月に1回写真入りで発行される広報誌「せせらぎの家」と、毎月、管理者・ケアマネジャー・スタッフでホーム全体の様子をお知らせする「ご家族の皆様へ」というお便りをお届けしている。更に、利用者一人ひとりの様子については管理者が手書きのお手紙と電話できめ細かく家族と連絡を取り合い信頼関係を深めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ホーム会にて職員の意見を出 してもらっている。個人面談も年１回行い、 職員の意見を反映するように努めている。 | 月1回、第一月曜日の夕方から2時間ほどホーム会議を行っている。管理者よりの連絡事項、職員個々の意見の検討、問題点を中心とした勉強会、カンファレンス等を行い、支援内容の向上に繋げている。人事考課制度があり、職員は個人目標を立て、年2回振り返りの機会を設け、管理者による個人面談も行われている。加えて、必要に応じ理事長による個人面談も行い、意見を聞く機会とし、モチベ―ションアップに繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者はこまめに職場に来ており、業務の把握に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ケアの実際と力量を把握したうえで、適した外部・内部研修を受ける機会を作るよう努めてい る。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により交流会等の参加は出来なかったが電話等により情報交換している。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前より、本人に直接お会いし話を伺い、不安や要望等の把握に努めている。入居後も安心できるような関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前より家族に見学して頂いたり、面談を重ね不安や要望等を聞き信頼関係を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の思いや状況を十分に確認し柔軟 な対応をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者のできること、得意分野を発揮できるような場面作り、教えてもらえるような声掛けの工夫をしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族とこまめに連絡をとり、本人を支えていけるよう努めている。又日頃の状態をこまめに報告すると共に本人からの手紙や電話により関係が途切れないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍により家族の方以外との交流は難しいが、馴染みの美容院に出掛けたり、お彼岸やお盆にはお墓参りに出掛けている。 | 兄弟やお孫さん家族から許可を頂いている友人の方の面会があり、利用者も楽しみにされている。また、家族の希望で家に戻られたり、お墓参りに出掛けている利用者が数名ほどいる。理美容については馴染みの美容院に行かれている方が若干名おり、他の方は3～4ヶ月に1回、顔馴染みの美容師にカットしていただいている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となり、皆で楽しく過ごせる時間を作っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了してもご家族から野菜を届けて頂いたり、これまでの関係を大切にしている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の言葉や表情・仕草・行動から、思いをくみ取るよう努めている。家族とも相談しながら思いや意向の把握に努めている。 | 意思表示の難しい利用者が三分の一弱おり、また、言葉で表す中で正しく伝わらない方も数名いることから、表情や仕草を見ながら職員の経験で判断して希望を受け止めるようにしている。そうした中、入浴時や食事の時、職員が空いた時間などを見計らって利用者と話をする時間を多く取るように心掛け、気づいたことは介護記録に纏め情報を共有し、更に、申し送り等で確認し合い、利用者の意向に沿えるようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 普段の会話や家族から継続的に情報を得ている。又、入居前より必要な情報を得るようにしケアに繋げている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを理解し、本人と深く関わり、その日その時の状態を全員で把握するようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的にカンファレンスを開き、入居者の状態を把握したり、職員・家族で意見交換をし入居者主体となる様な介護計画作成に努めている。 | 職員は1～2名の利用者を担当し、居室管理、足りない物の補充等、生活全般の支援を行っている。定期的に開かれるユニット毎のカンファレンスで担当職員からの提案を基に意見を出し合いモニタリングを行い、家族からの希望も加味しながらケアプラン作成に繋げている。入居時は家族から聞いた情報を基に3ヶ月間のプランを作成し、様子を見て本プラン作成に繋げ、基本的には3ヶ月あるいは6ヶ月で見直しを行い、次のプランの作成に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 身体状況や日々の暮らしの様子を職員間で情報を共有・記録し、気づきや状態変化を把握し介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診の付添いをしたり、本人や家族の状況・要望に応じている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員、介護相談員の方も運営推進会議の委員に入っており、情報交換している。訪問美容の活用をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。家族が受診に付き添い、場合によっては職員が同行したり、往診も受けている。 | 入居時に医療機関についての希望を伺い、ホームとしての取組みについて説明している。現在、数名の方が入居前からのかかりつけ医による月1回の受診対応となっており、バイタル表と日々の状況を纏めたものを家族に渡し受診に同行していただいている。また、かかりつけ医の月1回の往診で対応している方も数名ほどいる。他の三分の二の利用者については医師でもある法人代表者による月2回の往診で対応している。更に、常勤看護師1名、パート看護師が2名勤務し、日々の健康管理に加え医師との連携が図られており万全な医療体制が取られている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診と受診で対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調変化など見逃さないよう早期発見に努めている。介護職員は状態変化を看護職員に報告し共に対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には、医療機関に情報提供している。医師・家族と話をする機会をもち、早期退院できるようアプローチしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族の意向を踏まえ医師・職員が連携を取り安心して納得のいく最期が迎えられるよう随時、意思を確認しながら支援している。状況変化の度に、本人・家族・医師・介護職員とで話し合いを積み重ねて安心と納得を得られるよう努めている。 | 重度化した際の指針があり利用契約時に説明し、本人、家族の意向も確認している。食事や入浴をすることが難しい状況となり状態が変化して終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、看取り同意書にサインをいただき医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。令和3年に8名、令和4年に5名の計13名の方の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室において最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、看取り中には利用者の好きだった洋服に着替えていただき、アイスクリームや棒付きキャンディー等を口に含ませ味わっていただいたという。他の利用者にも看取りの状況を伝え、希望の方には最後のお別れをしていただいた。看取り後は振り返りの機会を設け、次回に繋げるようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入居者急変時マニュアル等で周知徹底を図っている。年1回、消防署の協力を得て救急手当等の勉強会を計画している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、入居者と共に避難訓練を行っている。 | 消防署へ連絡の上、6月には土砂災害を想定した避難訓練を行い、1階の利用者は外へ、2階の利用者はベランダへの移動をして訓練を実施した。合わせて消防署とやり取りをしての通報訓練を行っている。また、1～2名の職員が法人本部までの避難移動時間も測定している。11月には夜間想定の避難訓練を予定しており、エレベーターが使えない状態での避難訓練を行う予定である。また、緊急時に備え、緊急連絡網の確認訓練を毎月実施する予定を立てている。備蓄については水、缶詰、お米等が1週間分準備されている。 | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 馴染みの関係の中でも一人ひとりを尊重し、その時々の入居者の思いを大切にしながら、声掛け対応している。。 | 声の掛け方には特に気をつけるようにしている。大きな声にならないよう徹底し、特にトイレ介助の際には気くばりするように努めている。また、耳の不自由な方には筆談も交えながら優しく接するよう心掛け、気づいたことは職員同士で声を掛け合い気持ち良く過ごしていただくようにしている。呼び掛けは入居時に希望を聞き、基本的には名前に「さん」付けでお呼びしている。入室の際には「ノック」と「入っていいですか」の声掛けを忘れないようし、利用者の返事があってから入室している。ホーム会議でプライバシー保護に関する勉強会を行い意識を高め支援に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の関心・嗜好を把握し、一人ひとりの状態に合わせ本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをしている。難聴の方にはホワイトボードで筆談し曖昧な伝わり方にならないよう気を付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調やその日その時の本人の気持ちを尊重し、本人の希望を聞いたり相談しながら、一人ひとりのペースを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 普段から化粧やお洒落が出来るよう支援している。又、行事、外出の際は正装して楽しんでもらえるよう取り組んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者に合わせたメニューや季節を感じられる食材を多く取り入れている。食事を一緒に作ったり、お茶入れ・食器拭きも一緒に行っている。又職員も、同じテーブルで楽しく食事がとれるようにしている。 | 自力で摂取できる方が半数、一部介助の方が三分の一弱、全介助の方が数名、胃瘻の方が若干名という状況である。献立は栄養士が季節感も加味して立てたものを職員が一部アレンジして調理しお出ししている。利用者のお手伝いについては包丁が使える方が数名おり、野菜の下処理、味付け、盛り付け等に積極的に参加していただいている。誕生会や収穫祭等、行事の際には利用者が好物の「チラシ寿司」を中心に提供して楽しいひと時を過ごしている。また、おやつには「たこ焼き」「クレープ」等を手作りし、土用の丑の日には「鰻」、正月には本格的な「おせち」を手作りして季節感を味わい、時折、希望により「ハンバーガー」や「チキン」などをテイクアウトして楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの摂取量、その日の体調等を把握し栄養バランス、食べやすいもの等を考えた食事・水分を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来る限り、トイレでの排泄が出来るよう支援している。 | 自力でできる方と全介助の方がそれぞれ若干名で、一部介助1の方が三分の二強となっている。排泄パターンを把握できるまではチェック表を用い、職員が利用者のパターンを把握できた状況で一人ひとりの状況を見ながら早めにトイレにお誘いするようにしている。排便については一人ひとりの状況に合わせ、3～5日間ない場合にはコントロールを行い、「お茶」「スポーツドリンク」「牛乳」「乳酸菌飲料」「乳製品」等、1日1,200cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄パターンを把握し、十分な水分補給と乳製品等提供している。又、体操により便秘対策に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者の体調や希望に合わせて入浴してもらっている。季節に応じた菖蒲、ゆず、リンゴ湯等楽しく入浴できるようにしている。 | 全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。週2回、入浴を行い、希望で1日おきに入浴される方もいる。入浴拒否の方がいるが、日や時間を変えて対応している。「ゆず湯」「菖蒲湯」「みかん湯」「リンゴ湯」「花湯」等、季節に合わせて楽しんでいただくようにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活リズムや体調・希望等も考慮し、休息がとれるようにしている。夕方からは安心して眠れるよう穏やかな時間を過ごせるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書を個人ファイルに入れ、確認するようにしている。変更時には内容・副作用について申し送りをし、職員間で共有・状態の変化等の把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 畑作りでは野菜の育て方を教えてもらっている。又、花を生けたり、お茶を点ててもらったり、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの希望に沿って散歩や外気浴をしている。又、近くの公園へお花見に出掛け、季節を味わえるようにしている。 | 外出時、独歩の方が三分の一、手引き歩行とシルバーカー使用の方が数名、車いす使用の方が半数という状況である。天気が良い時にはホームの周りを散歩したり、玄関前やベランダのベンチに腰掛けたり、ホームの畑を見たりして外気浴を楽しんでいる。また、コロナ禍が続き外出を控えていたが、今年は春にドライブを兼ね近隣の桜の名所をまわり楽しんだという。秋にはドライブを兼ね諏訪湖の周りや近くの公園の紅葉を楽しむ予定を立てている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族より預かり事業所で管理している。意向がある方には、ご家族と相談しながら所持金を持っていただけるようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をかけたい希望があれば気兼ねなく電話できるよう配慮している。携帯電話を持っている入居者もおり、自らかけたり、操作が難しい方には希望時には電話できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を飾ったり、行事の写真や家族との写真を飾る等し、家庭的な雰囲気を大切にしている。音や光・温度湿度や囲い等には十分配慮している。 | 玄関前にはベンチと季節の鉢花が飾られ寛ぎの場となっている。ホーム内の所々には観葉植物や季節の花が飾られている。ホール兼食堂に伺うと「こんにちは!」と柔らかな笑顔で利用者の皆さんに迎えられ、温かな雰囲気が感じられた。壁には「折り紙」「ハリ絵」「ぬり絵」「書初め」等の利用者の作品が数多く飾られ、活動の一端を窺うことができる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | スタッフルーム前・ベランダや玄関先にはゆっくり過ごせる場所を設けている。フロアにはソファを置きゆっくりく寛げる空間を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には、本人や家族と相談し使い慣れた物や馴染みの物を置くようにしている。家族との写真や作品等飾っている。 | 整理整頓が行き届き清潔感が漂う居室は充分な広さが確保され、また、洗面台と大きめのクローゼットが完備され、暮らし易い造りとなっている。持ち込みについては家族と相談の上、イス、衣装ケース、ハンガーラック、ラジオ、時計等が持ち込まれている。また、家族の写真や自分の制作物、好きな人形等に囲まれ、中には化粧品や鏡が置かれた居室もあり、自由な日々を送っていることが窺えた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者がホーム内を安全に過ごせるように状況に合わせて環境整備に努めている。 | | |